

Tea Times

◆お茶の水女子大学広報誌【ティータイムズ】

Mar. 2006 **15**

- REPORT この1年を振り返って…… 2
大学とお茶の水女子大学同窓会「桜蔭会」との連携 ……2
創立130周年記念事業報告 ……3
- TOPICS 特集 生命学者 柳澤桂子氏に聞く「女性の生き方」…… 4
- REPORT 本学教育研究にみる新たな動向 …… 6
生活科学部本館の改修工事終了…… 6
国際会議「人道支援における心のケア」…… 7
17年度公開講座「子育てのための身近なリスク管理論」……7
- TOPICS 今売れている! 人気教授の本 …… 8
- NEWS 大学よりお知らせ …… 9
17年度 進路状況 …… 10
17年度 卒業・修了予定者 就職先一覧 …… 11
- INFORMATION MEDIA CLIP/CALENDAR/編集後記 …… 12



国立大学法人 お茶の水女子大学



柳澤桂子氏(裏表紙に紹介)



学長 郷 通子

この1年を振り返って

お茶の水女子大学長 郷 通子

「学長さんが居る」の声、思わず振り返りました。学生さんが私の存在を気にとめてくれた一瞬でした。2月の大学食堂です。

昨春、43年ぶりに母校に帰ってきました。私の役割は、国立大学の法人化という歴史の流れの中で、新たなビジョンの元にお茶の水女子大学が船出するための舵取り役です。今、学長は教育と研究の場を運営する責任者であるだけでなく、経営者でもあります。4人の理事が、学長と共に大学の運営と経営の責任を担います。本田和子前学長に続いて2人目の女性学長として、お茶の水女子大学は130年の伝統に、さらなる磨きをかけ、その存在感を増しつつあると感じます。幸い、平成18年度の運営費交付金は、前年度よりも増加、さらに、^{きいんどう}徽音堂の改修予算が認められ、5月頃から第3期改修工事が始まり9月頃完成です。学長室・理事室をはじめ大学事務局が置かれていた本部棟の機能は、この春、第2期改修工事が済んだ生活科学部本館に移動します。本学の伝統ある本館の再生です。

研究者としての学長についての情報は下記を御参照下さい。

http://www.brh.co.jp/s_library/j_site/scientistweb/no47/index.html



桜蔭会会長 斎藤與志子氏

大学とお茶の水女子大学同窓会「桜蔭会」との連携

桜蔭会会長 斎藤與志子

本会は100年余の歴史をもち、大正3（1914）年社団法人となりました。女子高等師範学校（女高師）時代は女子教育者の自負をもって、女子教育研究会、母校の大学昇格運動、寄宿舎経営をするなど、大きな働きをしてきました。

明治以来、会員の中には学校、幼稚園、福祉施設などの組織を設立するものが多くありましたが、特に関東大震災で焦土と化した桜蔭会敷地に、半年後には桜蔭会自ら「桜蔭学園」を設立し、教育の理想を実現したことは特筆に値しましょう。母校が新制大学になってからは、大学院設立に協力し、会員は創立100周年、130周年などの節目に繰り返し募金にも応えてきました。本会館は母校正門の左脇、春日通り沿いにあり、会員の就職相談や結婚相談のほか講習会、講演会等をおこなっています。

館内には『お茶の水女子大学歴史資料室』が公開されておりますので、皆様のご来館をおまちしております。

創立130周年記念事業報告

昨年10月から11月にかけては130周年記念事業として多くの催しが行われました。14号に続き、その一部をご紹介します。

神田道子氏 名誉博士特別講演 —「男女共同参画社会の形成と女子教育」—

昨年11月22日、創立130周年記念式典があり、式典後、神田道子氏（本学文教育学部教育学科昭和32年卒）への名誉博士号授与式と氏の特別講演が行われました。氏は女性の生き方や生活の課題を研究テーマとされ、現在、国立女性教育会館理事長を務めておられます。

特別講演「男女共同参画社会の形成と女子教育」では、神田氏は、女性の能力開発が、長い歴史のプロセスを経て良妻賢母や、固定的性別役割分業観などの規範から自由になった過程を話されました。最後にこれからは、女性が自立する力・社会参画する力をつけていくことが重要であると話を結ばれました。

第2次世界大戦を挟んだ教育制度激変の体験や、戦後の女性学の成立に関わった経験など、女性の生きる指針についての話は、聴衆に大きな示唆を与えました。

（文責：編集委員会）



お茶の水女子大学名誉博士 神田道子氏

記念植樹行われる

創立130周年記念式典に続いて、生活科学部本館中庭にカラタネオガタマの植樹が行われました。カラタネオガタマは春に美しく薫ります。秋に薫る徽音堂前のキンモクセイの老木とともに、今後は本学の春の象徴として育っていくでしょう。（文責：編集委員会）



生活科学部本館中庭での記念植樹

講演会「物理の世界を楽しもう」

本学創立130周年に当たる平成17（2005）年は、アインシュタイン博士が特殊相対性理論など重要論文を発表してから100年、没後50年に相当しました。博士は大正11（1922）年に来日された折、本学の創立記念日11月29日に来校され、歓迎会が開かれたそうです。

本学への来訪を記念して昨年11月26日に開かれた講演会「物理の世界を楽しもう」では、佐藤文隆氏（京都大学名誉教授、甲南大学教授）による「アインシュタインの百年：四つの顔」、村尾美緒氏（東大理学部助教授、本学大学院博士課程修了）による「量子学を通じて世界の広さを知る」、堀井香奈子さん（本学物理学科3年生）による「遠くまで行った人が一番えらい?!」の3つの講演が行われ、物理学の楽しさを伝えました。（文責：編集委員会）

生命科学者 柳澤桂子氏に聞く「女性の生き方」

お茶の水女子大学名誉博士（昭和35年理学部卒）

インタビュー：篠塚英子 本誌編集長



— 柳澤さんがお茶大生だったときの、取っておきの話をきかせてください。

私が卒論のテーマを選ぶとき、私にはどうしてもやってみたいテーマがありました。ある薬剤に対する耐性のある突然変異体を分離することでした。助手さんにそのことをお話しすると、それは、お茶大ではとても無理だといわれました。私はあきらめずに何度もお願いに行きました。最後には、そんなテーマを選んだら卒業できないかもしれないと言われました。私は「それでも結構です」と言って許可を頂きました。それから自分で勉強して、わずかなお小遣いで実験器具や本を買って、一人で始めました。そして、幸いなことにうまくいったのです。後になって、もっと生物学を知ってからわかったのですが、助手さんの言われたことは本当で、卒業が危ぶまれるほど難しいテーマだったのです。

— 生命科学者という職業はいつごろから意識しましたか？

8歳の時「棘のないサボテン」というアメリカのルーサー・バーバンクという育種家の伝記を読み、植物学者になりたいと思いました。

— 結婚と研究者の両立、とくに育児期はどのように対処してきましたか？

結婚と同時にニューヨークのコロンビア大学の大学院に入りました。Ph.D.を取るまでの3年間は、何とか家事と研究を両立させることができました。5月に学位を取り、8月に長男を出産。11月から慶應大学医学部の助手として働き始めましたが、子どもが1歳になって、私の後を追って泣くようになってから、子どもの精神に傷を残してはいけないと思って、退職しました。とても辛い決断でした。当時は子連れで研究者になる人はほとんどいなかったのが、私が悪い前例になるのではないかと悩みました。

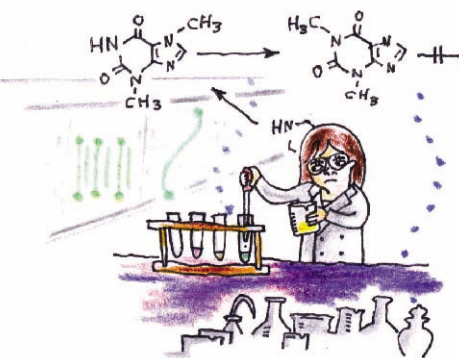
やがて、長女も生まれて、私は下の子どもが幼稚園の年長組になるまで、専業主婦に徹しました。もともと家事は好きだったので、子どもの洋服からおやつまで、全部手作り、家はピカピカに磨きました。

そして7年経ったとき、私はまったく無気力になってしまったのです。誰も認めてくれないことに、全勢力を注ぎ込むことには限界がありました。私は専業主婦第だということ、はっきり認識しました。

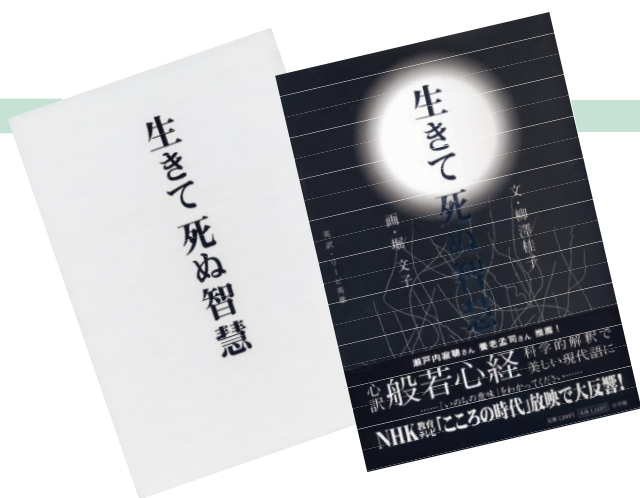
そんなときに、わりに近いところに、新しい生命科学の研究所ができるので来ないかといわれ、下の子どもも5歳になっていたのが、思い切ってフルタイムの研究者に復帰しました。

— 病の後、研究所を退職せざるを得なくなり、しかしその後、科学ライターに新しい道をつけたきっかけは何でしょう？

退職して、研究所で使っていた荷物が家に届いたとき、私は研究所のものが鉛筆1本でも混ざっていたら返そうと思って、調べていました。そのときふと、私の身についてしまったものは、どうして返せばいいのだろう、と思いました。12年間研究所に勤めましたから、研究所のお金で、私は一人前の研究者に育てられたのです。さらに考えてみると、小学校から大学まで、国民の税金で勉強させて頂きました。アメリカでも奨学金を頂いていました。これを何とかして、社会にお返ししたいというのが、私が本を書くきっかけとなりました。本を書くこと以外は、できなかったのです。



イラスト/緒方 泉



『生きて死ぬ智慧』（文・柳澤桂子、画・堀 文子／小学館／2004年／1,200円）

— 近代医学では認めてもらえぬ病をかかえて36年。一昨年のベストセラー『生きて死ぬ智慧』を書くきっかけと、そしてこの本のメッセージは何でしょう？

「般若心経」を現代詩に訳すというアイディアは、私のものではなく小学館の沢田芳明氏のもです。まったく知らない編集者から突然手紙を頂いて、私は「おもしろそうだ、やってみよう」と思いました。

それまで10年間あまり、中村元氏の著作を読んでいましたので、パソコンに向かうと、2日間で訳詩はできてしまいました。それくらい、「般若心経」が私のものになっていたのだと思います。

このお経のメッセージは「自我をなくしなさい」ということにつきます。自我をなくして一元的な世界に生きるのです。他の宗教も、皆おなじことを言っていると思います。

— 少子化や自然破壊など将来は難問が立ちはだかっています。これから社会に羽ばたく若い女子学生に、生命科学者として伝えたいことで、しめくくってください。

これまでは、女性の地位を引き上げるために、「男と女は変わらない」ということが盛んに言われてきました。これからは「男と女は違う」ということを考えていかなければならないと思います。

女性は子供を産み育てる性です。けれども人間でもありますから、自己実現の欲求は男性と同じように持っています。この2つを両立させることは大変むずかしいことです。男性中心にできあがった社会の機構を変える必要があります。

女性には女性特有の発想があります。社会を男性だけに任せられない所以です。女性の発想でしかできない教育もあります。

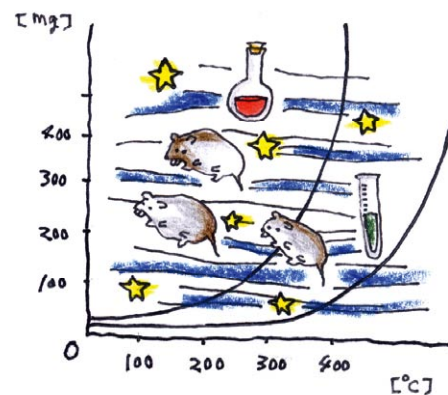
このようなことを考えますと、女性が集まって、女性としての考えを社会に問いかけていくことは非常に重要なことだと思われま。そのようなところに女子大の存在価値があると思います。

特に私が今、お茶大が中心になってやっていただきたいプロジェクトは、母親の出産後、いつ子どもから離れるのが、子どもにとって一番良いかという、乳児心理学の研究です。

皆さんが良きリーダーになられ、女性が安心して、子育てと自己実現をかなえられる社会を作ることにご貢献して下さることを、願っております。



自宅ベッドで執筆中の柳澤桂子氏



本学教育研究にみる新たな動向

羽入佐和子 学術・情報機構長 副学長

伝統ある高度な教養教育と、先端的融合的な専門的研究とが、本学の教育研究の特色をなしています。

教育面では、平成17年度、「魅力ある大学院教育イニシアティブ」という大学院教育の重点的プログラムとして次の二つのプログラムが採択されました。

人文社会系：「＜対話と深化＞の次世代女性リーダーの育成」

理工農系：「生命情報学を使いこなせる女性人材の育成」

どちらも女性の新しい活動分野を開拓する教育プログラムです。文系と理系の両分野を有する本学の大学院教育の成果は高く評価され、今後の取組にも多くの期待が寄せられています。

研究の面では二つの21世紀COEプログラム、「誕生から死までの発達社会科学（14年度採択）」と、「ジェンダー研究のフロンティア（15年度採択）」が進行中です。この他に、教員養成GP「サイエンスコミュニケーション能力養成プログラム」（17年度）

が採択され、教育指導者の養成にも力を入れています。

さらに4月からは次の3つのプログラムが新たに始まります。

「女性リーダー育成プログラム」

「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」

「幼・保の発達を見通したカリキュラム開発」

これらの活動に伴い、学内では日常的に多くの講演会やシンポジウムが開催されており、本年5月にはノーベル物理学賞受賞者（1991年）P.G.ドジャンヌ教授を招いての講演会も予定しています。

このように教育と研究の両面で常に最先端を目指している本学の動向は、大学HPに随時掲載しておりますのでご覧ください。

<http://www.ocha.ac.jp/>

生活科学部本館の改修工事終了

昨年7月から行われていた生活科学部本館の改修工事（第11期）が今年2月末に終了しました。これで徽音堂（大学講堂）を除く本館の改修が完了しました。建物1階及び2階の前面には、学長室・理事室をはじ

め大学事務局が置かれ、1階及び2階の左右の翼と3階は、生活科学部の講義室・実習室や研究室が配置されています。

多くの国立大学法人の中でも、生活科学部本館のように戦前の建物（1932年竣工）を保存活用しているケースは例外的で、建築の専門家からは高い評価を受けています。また徽音堂の改修も決定し、本年5月着工、9月末には竣工の予定です。この間徽音堂は使用できなくなります。しかし、10月のオープンキャンパスや11月の徽音祭（大学祭）は、化粧直しされた徽音堂で開催されることとなります。

（文責：編集委員会）



改修の際、保存された大理石の暖炉（歴史資料館・旧洋式作法室）

国際会議「人道支援における心のケアーカウンセリングと国際支援」

本学の開発途上国女子教育協力センターでは、過去3年間のアフガニスタン女性教育支援の実績を踏まえ、「開発途上国（紛争地）における女性の心のケアの支援」新プロジェクトを立ち上げました。

2月11日、その一環として、人道支援での心理的ケアの重要性、カウンセリングと国際支援のコラボレーションを考える国際会議（後援：5女子大学コンソーシアム、国連人口基金東京事務所、独立行政法人国際協力機構）が本学において開催されました。

酒井啓子氏（東京外国語大学大学院教授）とヘニア・ダカック氏（国連人口基金）の講演後、お二人にアン・ブロッズキ氏（メリーランド大学助教授）、柴田裕子氏（NPOピースウィンズ・ジャパン）を加え、河野貴代美本学客員教授（日本フェミニスト・カウンセリング学会理事長）の司会で、シンポジウムが行われました。国際支援における心理的ケアという、学術

と実践を融合させた新しい試みに対して、活発な論議が行われました。（文責：編集委員会）



国際会議「人道支援における心のケア」のシンポジウム

17年度公開講座「子育てのための身近なリスク管理論」

18年1～2月にかけて、子供を育てている、あるいは将来育てるであろう女性を主な対象として、ライフサイクルのさまざまな段階におけるリスクについて、それを回避、克服することを目的にした公開講座が、5回連続で実施されました。全回本学教員が担当し、牧野カツコお茶の水女子大学附属幼稚園長・人間文化研究科教授をトップバッターに、坂元章氏、大森美香氏、耳塚寛明氏、大森正博の各氏が、発達心理、教育学、福祉論など幅広い研究領域から話され、総数約250人の参加がありました。

（文責：編集委員会）



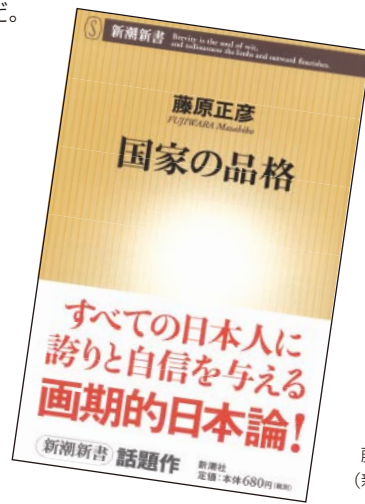
今売れている! 人気教授の本

自著『国家の品格』を語る 藤原正彦 理学部

小学校の頃より、クラス中の生徒、学校中の生徒から追いまわされる夢をしばしば見た。中学、高校、大学となってもそんな夢をよく見た。原稿を書いて主張することの多くなったここ20年ほどは、日本中いや世界中の人から追いまわされる夢をよく見る。皆に追いまわされ、屋根裏にかくれたり床下にかくれたり、川の中にもぐったり高い木に登って幹や葉に身を隠したりする。それでも逃げ切れず、ついには捕まり、さてとどめを、という一瞬に目がさめる。冷や汗で身体はびしょりである。私を助ける者は誰一人いない。時には追手の中に女房の顔が混じっていることさえある。

皆に愛されたいと願いながら、皆に嫌われることしか言わない、という屈折が私にはあるようだ。「国家の品格」ではこともあろうに、自由、平等、民主主義、そして国民までを厳しく批判した。タブーに触れたのだから日本中世界中に総スカンを食うだろう。その時は文筆を折り数学に戻ればよい、と思っていた。

それがベストセラーとなった。この騒ぎはもう沢山だ。執筆、インタビュー、講演、ラジオ、テレビと、毎日10件ずつ断っているうちに、美しい顔が、みるみるいじわる顔になってきたからだ。



藤原正彦 著『国家の品格』
(新潮社/2005年/680円)

「ツチャ教授の哲学講義」 土屋賢二 著

土屋賢二氏(文教育学部)へのインタビュー

Q: 今話題の本『ツチャ教授の哲学講義』の元になった授業は、何年度で、科目は何ですか。

A: 2004年度の「哲学概論」です。

Q: 本書には、先生の本ではおなじみのH先生がたびたび登場しますが、実在の人物ですか。

A: 実在です。実在しすぎているほどです。エッセイでも嘘は書いていません。

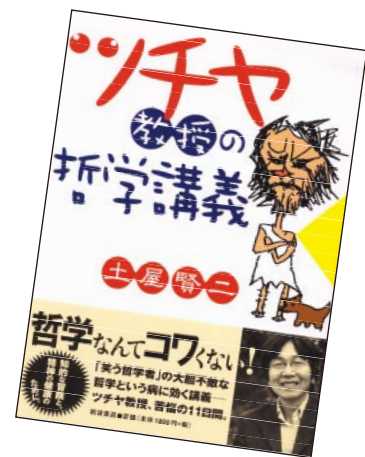
Q: 本書には、「 $2+3=5$ 」という数式が頻出しますが、何か由来があるのですか。

A: 5以上の足し算ができないのではなく、だれもが同意する例として使っています。これまで反論が出たことはありません。

Q: 最終回の講義では、「いかに生きるべきか」とか、「何が一番価値があるか」といった問題を哲学的に解決することはできない、と述べておられます。学生に対するメッセージは何でしょう?

A: 壁に好きな色を塗ることは、決められた色を塗れという命

令に従うこととは違います。「生きる」「選択する」というのは、どこかに正解があってそれをなぞることとは根本的に違います。これをちゃんと論証するのは簡単ではありませんが、そういうことを伝えたいと思っていました。(文責: 宮尾正樹 文教育学部)



土屋賢二 著『ツチャ教授の哲学講義』(岩波書店/2006年/1,800円)

大学よりお知らせ

18年度予定の海外短期語学研修

本学では、毎年夏休み期間中に、学部学生向けの海外短期語学研修が行われています。18年度の研修先はニュージーランド、ダニーデンにあるオタゴ大学で、研修期間は7月29日から6週間です。オタゴ大学附属英語教育機関で集中英語コースを履修する他、学部で正規課目の聴講もできます。この研修に参加すると、本学のコア外国語(英語)の単位4単位が認定されます。

問合せ：国際交流室(田中) ntanaka@cc.ocha.ac.jp
(文責：編集委員会)



18年度 公開講座「化学・生物総合管理の再教育講座」

主催 お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター

公開講座「化学・生物総合管理の再教育講座」の18年度前期開講科目が決定しました。現代社会をよりよく理解する教養を涵養することを目指し、化学物質や生物によるリスクの評価・管理、そして技術革新及びその社会・生活とのかかわりなどについて、自己研鑽をつむ機会を提供することを目的とした公開講座です。企業の方、教育関係者、行政・自治体関係の方、年齢・性別を問わず受講できます。受講料は無料、開講時間は平日18:30～または土曜日。既に前期の申し込みは締め切っておりますが、詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.ocha.ac.jp/koukai/saikyouiku/>

開講日	科目名	講師
4月14日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
4月21日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
4月28日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
5月5日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
5月12日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
5月19日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
5月26日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
6月2日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
6月9日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
6月16日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
6月23日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
6月30日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
7月7日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
7月14日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
7月21日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
7月28日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
8月4日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
8月11日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
8月18日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
8月25日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
9月1日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
9月8日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
9月15日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
9月22日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
9月29日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
10月6日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
10月13日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
10月20日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
10月27日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
11月3日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
11月10日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
11月17日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
11月24日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
12月1日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
12月8日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
12月15日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
12月22日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授
12月29日(土)	化学物質と生物の総合管理 社会・生活と技術革新 リスクとコミュニケーション	片岡康子教授

大学院「発達社会科学専攻」改組について

本大学院人間文化研究科では、18年度から、前期課程「発達社会科学専攻」を「発達社会科学専攻」と「ジェンダー社会科学専攻」の2専攻に改組を予定しています。「ジェンダー社会科学専攻」は17年度に設置された後期課程「ジェンダー学際研究専攻」に接続する専攻であり、この改組によって、本学の大学院レベルでのジェンダー研究の教育研究組織のかたちが整うことになりました。

(文責：編集委員会)



17年度定年退職予定者の教職員

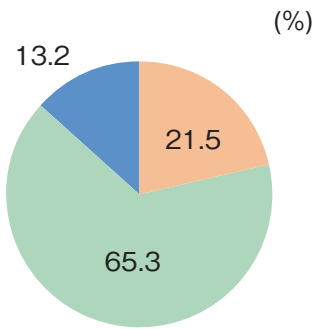
17年度定年退職者は大学が9人、附属学校2人、職員2人です。

- 文教育学部 石丸昭二教授(言語文化) 片岡康子教授(芸術・表現行動)
- 理学部 山下真司教授(生物)
- 生活科学部 脊山洋右教授(食物栄養) 田中辰明教授(人間・環境科)
- 大学院人間文化研究科 石黒節子教授(比較社会文化学) 牧野カヅコ教授(ジェンダー学際研究) 畑江敬子教授(人間環境科学)
- 生活環境研究センター 佐竹元吉教授
- 附属中学校 佐々木和枝教頭 石田勉教諭

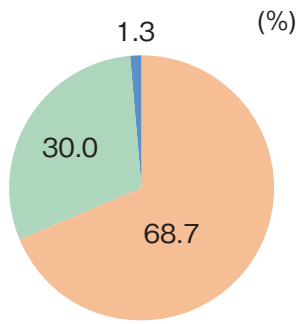
17年度 進路状況 (平成 18年3月卒業・修了予定者)

◆ 3学部別 進路状況

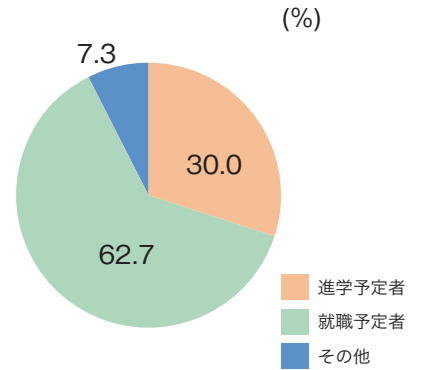
文教育学部246名の構成比



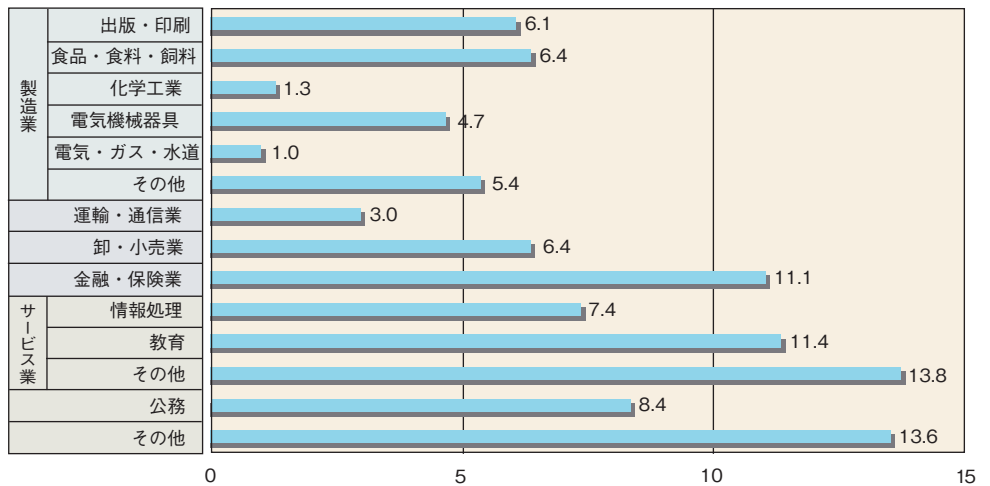
理学部148名の構成比



生活科学部148名の構成比



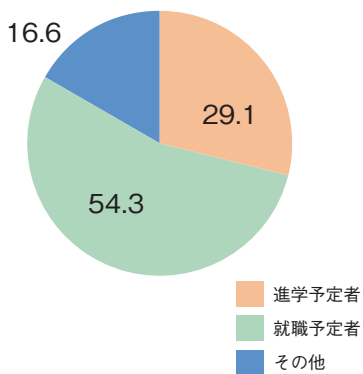
学部学生 産業別就職内定状況



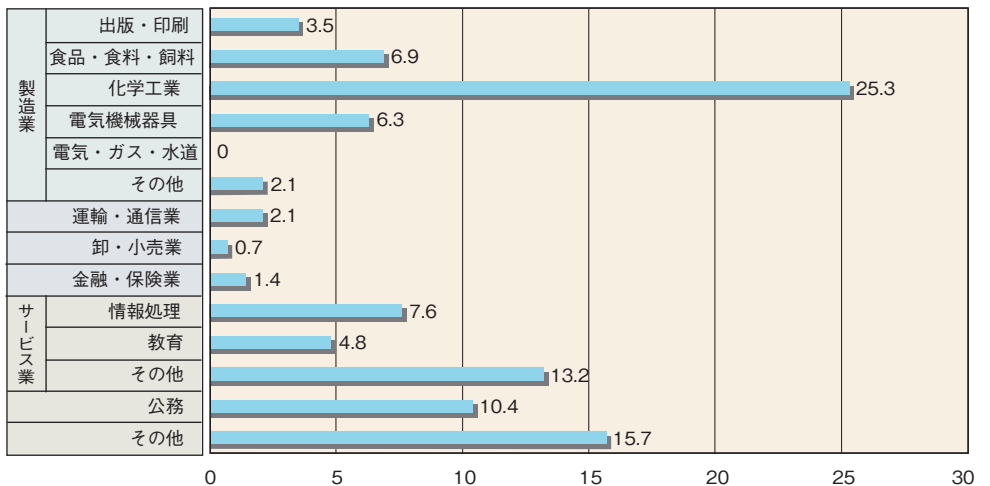
卒業予定者に占める就職内定者 (%)

◆ 大学院前期課程 進路状況

人間文化研究科
前期課程257名の構成比 (%)



大学院前期課程 産業別就職内定状況



修了予定者に占める就職内定者 (%)

17年度 卒業×修了×予定者 就職先一覧

平成18年1月31日現在

◆ 学部学生卒業予定者

建設業	セイメケミカル (株)	(株) トーメンエレクトロニクス	三井不動産マネジメント (株)	非営利的団体	(株) CLIS
(株) ナチュラルハウス	大塚製薬 (株)	(株) ミキハウス	日本ハウズインク (株)	環境圏研究所	(株) MS K 情報サービス
ボラス (株)	武田薬品工業 (株)	(株) 三陽商会		(財) 日本分析センター	(株) NEC ソフト
大和ハウス工業 (株)	一般機械・器具	(株) 内田洋行	医療・保健	高齢・障害者雇用支援機構	(株) NTT データ
木下工務店 (株)	富士ゼロックス (株)	アップリカ葛西 (株)	医療法人 新光会	産業技術総合研究所	(株) コンピュータマインド社
	電気機械器具	エース (株)	聖母ホーム	農業検査所	(株) シーエーシー
食品	(株) 東芝	オンワード樺山		日本学生支援機構	(株) ティー・シー・シー
(株) ダイショー	(株) 日立製作所	小売業	法務	日本赤十字社	(株) ティー・シー・シー
(株) ビックスコーポレーション	(株) 富士通	(株) TOKAI	黒田法律事務所		(株) ティー・シー・シー
(株) ユーハイム	カンオ計算機 (株)	(株) イトーヨーカ堂	鹿児島大学	その他サービス業	(株) みずほトラストシステムズ
(株) 永谷園	日本ヒューレット・パッカード (株)	(株) ココスジャパン	名古屋大学	(有) ハズプランニング	(株) ワークスアピリケーション
(株) 日本ハム	日本電気 (株)	(株) フランドル	教育 (国立)	(有) 東京マーケティング	(株) 東京海上日動システムズ
キッコーマン (株)	富士通 (株)	(株) 俄	教育 (公立)	(株) NOVA	NEC ソフト (株)
キューピー (株)	輸送用機械器具	(株) 虎屋	富山県教員	(株) VIBE	NTT ソフトウェア (株)
クノール食品 (株)	三菱自動車 (株)	(株) 高島屋	群馬県教員	(株) TCK	NTT データネット (株)
サントリー (株)	マツダ (株)	(株) 西武百貨店	埼玉県教員	(株) アイ・エム・ジェイ	ダイヤモンドコンピュータサービス (株)
高砂香料工業 (株)	精密機械器具	JR 東日本フードビジネス	山梨県教員	(株) インテージ	(株) ワールドシステムコンサルタント
三栄源エフ・エフ・アイ (株)	(株) リコー	住商食品 (株)	石川県教員	(株) インテック	(株) 東京電子計算 (株)
山崎製パン (株)	エルピーダメモリ (株)	島村楽器	愛媛県教員	(株) ウェザーニューズ	八十二システム開発 (株)
昭和産業 (株)	鷲宮製作所	銀行・信託業	長野県教員	(株) キングラン	富士ソフト ABC (株)
長谷川香料 (株)	その他製造業	(株) みずほ銀行	鳥取県教員	(株) コスモグラフィック	放送業
日清食品 (株)	(有) リステック	(株) 静岡銀行	茨城県教員	(株) パナソニック	JFN
日本食研 (株)	(株) INAX	三井トラストフィナンシャルグループ	東京都教員	(株) ベネッセコーポレーション	SB C 信越放送
敷島製パン (株)	(株) アベックス	三井住友銀行	教育 (私立)	(株) ラウンドラン	国家公務
味の素冷凍食品 (株)	(株) コクヨ	住友信託銀行	英明高等学校	(株) リクルート	東京国税局
出版・印刷	べんてる (株)	千葉銀行	東星学園	(株) リクルートエイブリック	東京税関1種
(株) ラテラネットワーク	東陶バスクリエイト (株)	北国銀行	青山短期大学	(株) リクルートスタッフィング	地方公務
(株) 世界文化社	東陶機器 (株)	証券・商品取引	フレンド学園中学・高等学校	(株) ルミネ	ひたちなか市役所
(株) 千秋	電気・ガス・水道	大和証券	安田学園中学・高等学校	(株) 大広	愛知県庁
(株) 童心社	京葉瓦斯 (株)	野村證券	板橋富士見幼稚園	(株) 日本リサーチセンター	横須賀市役所
(株) 南江堂	東京ガス (株)	保険	大和郷幼稚園	(株) 富士経済	横浜市
(株) 武揚堂	東北電力 (株)	(株) 損害保険ジャパン	神奈川学園中学・高等学校	(株) 富士通ビジネスシステム	葛飾区役所
(株) 臨川書店	運輸業	アイ・エヌ・シー生命保険 (株)	洗足学園小学校	(株) 明光企画	群馬県庁
フティック社 (株)	(株) H. I. S	住友生命保険相互会社	鎌倉女子大学幼稚部	(株) 野村総合研究所	警視庁
成美堂出版 (株)	セイノーロジックス (株)	第一生命保険相互会社	カリタス女子高等学校	ANA テレマート (株)	秋田市役所
西日本新聞社	阪急交通社	東京海上日動火災保険 (株)	埼玉・私立白百合幼稚園	NTTsolco	神奈川県庁
大日本印刷 (株)	東海旅客鉄道 (株)	日本興亜損害保険 (株)	駿台甲府中学・高等学校	アデコ (株)	須崎市役所
大分合同新聞社	東急バス (株)	日本生命保険相互会社	小林聖心女子学園	エン・ジャパン (株)	静岡県庁
中日新聞社	東京地下鉄 (株)	明治安田生命保険相互会社	その他の教育	(株) キャリアデザインセンター	千葉県庁
帝国書院	東日本旅客鉄道 (株)	その他金融・保険業	(株) 日本通信教育連盟	コナミススポーツ (株)	千葉市役所
凸版印刷 (株)	通信業	(株) ニッシン	ジョイネットコーポレーション	(株) サンジ企画	東京都庁
北日本新聞社	NTT 東日本 (株)	(株) ライフ	四谷学院	セコム (株)	富山県庁
毎日新聞社	卸売業	不動産業	(株) こうゆう (学習塾)	パークタワーホテル (株)	
化学工業	(株) happinet		音楽指導	リクルート HR マーケティング	
(株) 三菱ウェルファーマ			河合塾	情報処理	

◆ 大学院前期課程修了予定者

食品	(株) カネボウ化粧品	ピーエス (株)	その他金融・保険業	(株) アンカーネットワークサービス	(株) 富士通フロンテック
(株) ギンビス	(株) ジーシー	(株) 東芝	中央労働金庫	(株) エバ	(株) NTTデータインフラマート
(株) ロッテ	(株) ニチパン	NEC	医療・保健	(株) コモテック	住友コンピュータサービス(株)
(株) 永谷園	(株) ファンケル	東芝松下ディスプレイテクノロジー	(財) 東京顕微鏡院	(株) システム計画研究所	数理システム (株)
カルビス (株)	(株) 伊勢半	日本 IBM (株)	教育 (国立)	(株) タイショーテクノス	(株) 日本システムウェア (株)
キッコーマン (株)	(株) 三菱化学ビーシーエル	日立製作所	お茶の水女子大学	(株) ベネッセコーポレーション	日本テキサス・インスールメント
小川香料 (株)	3 栄源 FF (株)	本田技研工業 (株)	静岡大学教育学部附属幼稚園	アビームコンサルティング	(株) 日立東日本ソリューションズ
森永製菓 (株)	GE ヘルスケア バイオサイエンス	その他製造業	教育 (私立)	テンプスタッフ・ユニバーサル (株)	国家公務
町田食品 (株)	オンコセラピューサイエンス	シャルレペルジュ	光塩女子学院	旭化成アミダス (株)	甲府地方検察庁
明治製菓 (株)	コニシ (株)	東陶ハイリビング (株)	桜蔭学園	国土環境 (株)	総務省 (国家II種)
繊維工業	セントラル硝子 (株)	東陶機器 (株)	日本女子大学	日本エヌ・ユー・エス (株)	東京国税局
三菱レイヨン (株)	科研製薬 (株)	運輸業	品川女子学院	木下サカス	特許庁 (国家I種)
出版・印刷	花王 (株)	(株) ワールド航空サービス	非営利的団体	野村総合研究所	内閣官房 (国家II種)
くもん出版	住友スリーエム (株)	通信業	海外技術者研修会横浜研修センター	放送業	日本郵政公社
共同印刷 (株)	全業工業 (株)	(株) NTT ドコモ	国際協力機構	日本放送協会	地方公務
台湾時報新聞社	大正製薬	日本電信電話 (株)	国際交流基金	情報処理	千葉家庭裁判所
中日新聞	大日本住友製薬 (株)	小売業	物質科学材料研究所	(株) IHI エスキューブ	川崎市役所
東方書店	大鵬薬品工業 (株)	(株) 虎屋	勤労者退職金共済機構	(株) コルトボックス	東京清瀬市男女共同参画センター
化学工業	一般機械・電気機械・輸送機械器具	証券・商品取引	その他サービス業	(株) ソリントンシステムズ	
(株) インターフェース	ニッタ (株)	大和証券	(株) アクセンチュア	(株) 日立システムアンドサービス	

INFORMATION

MEDIA CLIP

クリップ情報 平成17年11月以降18年3月6日まで、本学に関するおもな新聞記事一覧

- ★マータイ通信・ワンガリ・マータイ名誉博士(毎日新聞11月7日～1月1日不定期連載)
- ★白楽ロックビルの不肖無精・林正男教授(読売新聞11月12日～3月4日、毎週土曜夕刊連載)
- ★学び再考・耳塚寛明教授(日経新聞11月14日～3月6日、毎週月曜連載)
- ★新・赤ちゃん学国際シンポジウム・菅原ますみ助教授(産経新聞11月28日)
- ★日本人の情緒復活を・藤原正彦教授(産経新聞11月29日)
- ★第55回小・中学校作文コンクール・附属中学校(読売新聞12月1日)
- ★正論:「憲法と世論で伝統を論ずる無理」・藤原正彦教授(産経新聞12月7日)
- ★よみうり子育て応援団@札幌・榊原洋一教授(読売新聞12月8日)
- ★売れてる理由:「国家の品格」・藤原正彦教授(東京新聞12月8日)
- ★日本人の誇り、あるべき国柄を示す・藤原正彦教授(毎日新聞12月9日)
- ★ケニアの森再生誓う・ワンガリ・マータイ名誉博士(毎日新聞12月19日)
- ★新・赤ちゃん学国際シンポジウム・榊原洋一教授(産経新聞12月22日)
- ★第1回「平塚らいてう賞」・戒能民江教授(東京新聞12月26日)
- ★私がみるニッポンの力・緒方貞子名誉博士(日経新聞1月7日)
- ★著者に会いたい:「ツチャ教授の哲学講義」・土屋賢二教授(朝日新聞1月8日)
- ★学びの時評:「受験生を励ました」・藤原正彦教授(東京新聞1月15日)
- ★即興政治論・藤原正彦教授(東京新聞1月17日)
- ★ライブドア事件を語る1・藤原正彦教授(読売新聞1月25日)
- ★問題は市場原理主義・藤原正彦教授(毎日新聞1月28日)
- ★Weekly日誌・藤原正彦教授(毎日新聞金曜連載2月3日～2月24日)
- ★ライブドアショック:倫理道德壊す市場原理主義・藤原正彦教授(産経新聞2月8日)
- ★「国家の品格」快進撃の理由は?「論理より情緒」に共感・藤原正彦教授(読売新聞2月8日)
- ★社会人向け化学・生物総合管理講座が好評(日刊工業新聞2月10日)
- ★あの人に迫る:情緒失った日本「魂」を取り戻せ・藤原正彦教授(東京新聞2月10日)
- ★マータイさんもったいないJapan・マータイ名誉博士(毎日新聞2月13日～2月21日不定期連載)
- ★秋にエッセイスト「卒業」・柳澤桂子名誉博士(読売新聞2月24日)
- ★学びの時評:「合格発表前まさかの大当たり」・藤原正彦教授(読売新聞2月27日)

★お茶の水女子大附属幼・小:年長→小1 3段階の接続期設定(日本教育新聞2月27日)

★適量ワサビは体に○!?・森光康次郎助教授(毎日新聞2月25日)

CALENDAR

大学の暦 平成18年4月～平成19年3月

4月7日(金)	入学式
5月31日(水)	開学記念日
6月28日(水)・29日(木)	理学部3年次編入学試験
7月17日(月)	大学見学会
8月24日(木)・25日(金)	大学院博士前期課程入学試験
9月7日(木)・8日(金)	大学院博士後期課程入学試験
9月29日(金)	9月卒業式
10月2日(月)	10月入学式
10月14日(土)・15日(日)	大学見学会
10月18日(水)	文教育学部・生活科学部3年次編入学1次試験
10月28日(土)	読売・お茶大女性アカデミア21
11月2日(木)	文教育学部・生活科学部3年次編入学2次試験
11月11日(土)・12日(日)	德音祭(お茶の水女子大学学園祭)
11月28日(火)	文教育学部・理学部・生活科学部推薦入学試験
11月29日(水)	創立記念日、文教育学部推薦入学試験
1月20日(土)・21日(日)	大学入試センター試験
2月1日(木)・2日(金)	大学院博士前期課程入学試験
2月25日(日)・26日(月)	学部入学試験前期日程
3月3日(土)～5日(月)	大学院博士後期課程入学試験
3月12日(月)	学部入学試験後期日程
3月23日(金)	卒業式

【表紙の人】柳澤桂子さん(生命学者、本学卒業生)

理学博士。歌人。「やわらかき冬の光が身にしみて生きよ生きよと我を温む」。マウスを使った発生学で先駆的な成果を残す。69年発病以来35年以上「原因不明の難病」に苦しみ、99年によく周期性嘔吐症と診断された。86年から闘病生活の傍ら科学ライターとして活躍。現在、新たに脳脊髄液減少症と診断され治療を受けている。『卵が私になるまで』【新潮社】で講談社出版文化賞科学出版賞。撮影/秋山孝夫

編集後記

15号は17年度最後の広報誌発行になります。卒業式と入学式、送る学生、迎える学生、ともに手にとってみて、お茶大の雰囲気や伝わる冊子をと心がけました。特集に本学卒業生の柳澤桂子氏を迎えましたが、ご闘病中のためメール対談にしました。少ないスペースですが皆さまへの熱いメッセージを汲み取っていただけたらと思います。

次号は6～7月頃、編集委員会も新体制・新スタッフの下での発行を予定しております。[編集長]



■お茶の水女子大学広報誌 Tea Times 15号
平成18年3月20日発行

■編集発行
国立大学法人 お茶の水女子大学 社会連携・広報推進室
■編集委員会

編集長 篠塚 英子 社会連携・広報推進室長
編集委員 柴坂 寿子 西村 光範 河野 隆 高橋 苗々子
学生協力者 緒方 泉 文教育学部3年
発行責任者 羽入 佐和子 学術・情報機構長

問い合わせ先

国立大学法人 お茶の水女子大学 企画広報課
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
TEL 03-5978-5105 FAX 03-5978-5890
E-mail info@cc.ocha.ac.jp URL http://www.ocha.ac.jp
Tea Timesは本学ホームページでいつでもお読みになれます。

制作/株式会社プリモパッソ